

第170回 長崎大学FD実施報告書（平成30年7月26日提出）

1. 題 目： e-learningで「ループリック」を学ぶ

2. 日 時： 平成30年5月21日（月）～6月15日（金）（第1期）
平成30年6月25日（月）～7月20日（金）（第2期）

3. 場 所： 主体的学習促進支援システム（LACS）でのe ラーニング

4. 主 催：教務委員会

企画・実施：評価・FD 教育改善専門部会

5. 対 象： 教職員

6. 長崎大学FDに関する申合せ第2項への該当について【複数選択可】

（該当するものに○を記入すること）

- [○] (1) 教員の教育活動に関するもの
- [] (2) カリキュラムの改善に関するもの
- [] (3) 教育の組織的改善に関するもの
- [] (4) 入学者選抜方法の改善に関するもの
- [○] (5) その他教育改善及び入学者選抜の改善に関するもの

7. 今回のFDの趣旨・意義（6. に関連した形で記述すること）

今後、教育の質保証の観点からも評価基準の明確化が必要となっており、「ループリック」がそのひとつのツールとして考えられる。このFDでは、LACS上のe-learningコンテンツ（金沢電子出版）を活用し、ループリックの基本を学び、教員自身の授業科目のループリックを作成することを試み今後の授業に生かしていくこととする。

8. プログラム構成【題目・担当講師】（当日使用した資料等を添付すること）

LACS上のコミュニティ一覧から「第170回長崎大学FD「e-learningでループリックを学ぶ」を選択して受講し、授業に対するループリック（Excel）の課題提出（教材閲覧所要時間：75分程度）

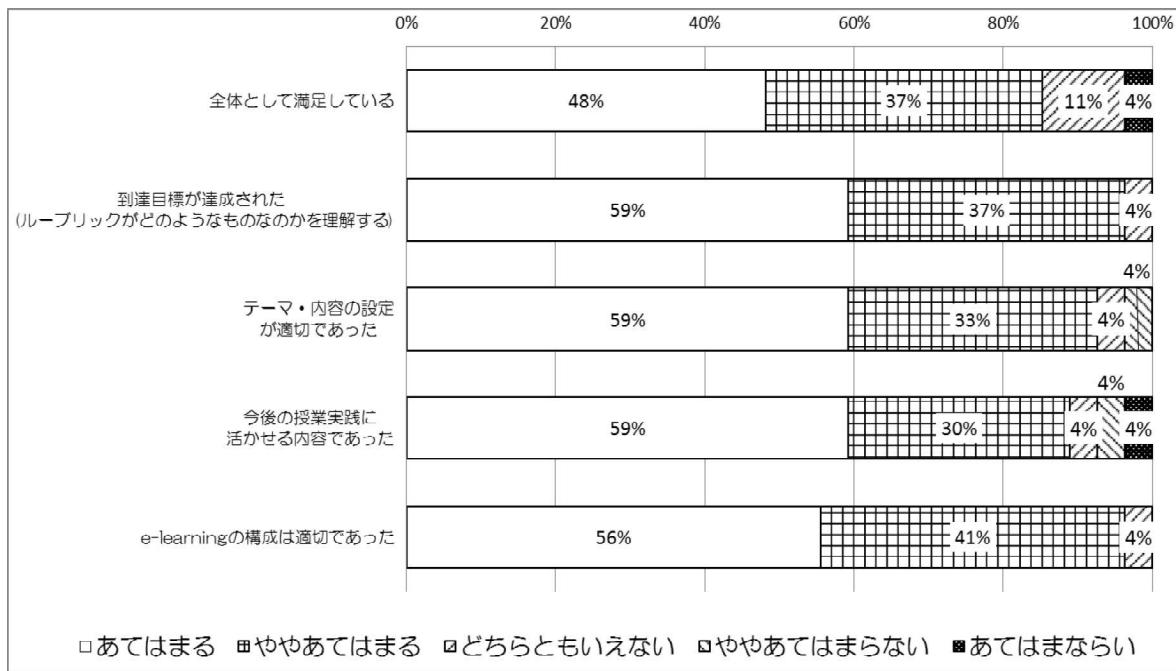
担当講師：大学教育イノベーションセンター 若菜 啓孝

9. 参加者(第1期・第2期)： 53 名 (受講証明書発行対象者：28名)
 (内訳)

所属	人数
教育学部	1
教育学研究科	1
医歯薬学総合研究科(医学系)	7
医歯薬学総合研究科(保健学系)	2
医歯薬学総合研究科(薬学系)	2
原爆後障害医療研究所	4
病院	1
工学研究科	1
水産・環境科学総合研究科(環境科学領域)	4
水産・環境科学総合研究科(水産科学領域)	2
ダイバーシティ推進センター	1
大学教育イノベーションセンター	1
学生支援部教育支援課	1
計	28

10. 実施したFDの成果等(第1、第2)

(1) 参加者からの評価(回答者：27名)



II. 今回のプログラムについて、お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

- 大変助かりました。
- 終了後にループリックについてネット検索を行ってみたところ、受講中に考えていた問題点が実際に提示されていた。その問題点というのは、どの程度のレベルまで来ている学生がいるか分からぬのに、どの

程度のボーダーを設定していいのか分からぬということである。小中学校なら学力・教養の差も小さく、複数の評価者が共有できるような一定のボーダーを設定することは有意義であると思うが、大学の場合には個々人のバックグラウンド(特に学習背景)や、今後は情報へのアクセス能力も大きく異なってくる。そうしたときに、一定のボーダーに達するまでの努力の差にもばらつきが生じる。これらを回避するために、全学では基礎体力である、基礎教養課程や発表・レポートの作成練習をもっとさせるべきであると思う。毎年レポートを見ているが、内容が薄くコピペも多発しており、はっきり言って社会人の前段階の身分としては非常に足腰が弱いと感じる。こういった発表やレポートの報告レベルが低いままでは提出課題も正当に評価できないし、個々人のこれまでの成長過程に任せて適当にやつていてはスタート地点もそろえられないため、ループリックの役割も十分に果たせないのではないかと思う。

- これまでループリックの必要性がいまいち感じられませんでしたが、実際作ってみて意義が分かりました。役に立つ科目とそうでない科目があることや、あらかじめ配布しておくことで教養教育や、技能や態度を評価する必要がある専門科目では効果があると思います。
- ループリックの問題点を理解することができたように思います。仕方がないことですが、時々動画がストップしてしまうといった事態が発生しました。
- 学生評価の客観性を高めるために役立てられそうです。
- 受講して、現場の確認と修正が行えたので、今後の評価がより適切に行なえると思われる。
- とても勉強になりました。このようにオンラインで学べるととても便利です。
- ループリックが、学生にとっても教員にとっても、実用的かつ効果的なものであると分かりました。
- 参考動画のように、希望者のみ実際にやってみる機会があると、さらに理解が深まる感じました。ループリックの解説動画については、少し単調で面白みに欠けました。
- 動画の講義を連続して視聴できなかつたので、どの項目が視聴済みかが表示されると非常にやりやすいのではないかと思いました。
- ループリックの基礎的内容は理解できました。e ラーニングで、PPT のみでなく講師の表情があるとよりよかったです。
- 未知であった「ループリック」について、説明が大変わかりやすく、細かい配慮がされていて、優れたプログラムと感じた。
- 担当授業を題材に提出課題を考えたこともあり、課題の作成を通じて、観点のレベルなど、これまでの評価基準を再考すべきか、考える契機となりました。
- 評価の仕方、教員間の評価の差がこれまで気になっていましたが、ループリックを利用すると解決できそうである事が分かり、今後の授業に生かせそうです。また、授業前に学生に提示することで、学習効果の高まりそうなので今後行なってみようと思います。
- レポートで主に評価している科目においては、ループリックを用い評価基準を明白にすることは重要であり、是非導入したいと思った。ただ、専門教育のほとんどが期末試験で評価しているので、すべての科目にループリック使用する必要性はないと思う。
- スライドがうまく再生できないことがありました。時間を空けたら再生できました。
- 分かりやすかったです
- e-learning の視聴時、何度か、画像が静止したり、途中で終了したりしたのは、こちらのパソコンの環境設定がおかしかったのでしょうか。スムーズに聴講できたらなおよかったです。
- 科目全体を校正するようなループリックの作成は困難ですが、応用は利かないようだと理解しました。
- 内容の資料があると今後の講義準備時に活かしやすい。確認のために動画を見るのは時間的に無理があるので、手元に残せるものを PDF などで用意して頂けると助かります。
- とくにありません。

- e-learning での FD は 2 回目位でしたが、都合の良い時間に受講でき、便利だと思います。動画がスムーズに見えない時がありました。
- 内容は良いと思います。
- 特に不満はないです。

III. 長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。

- 成績不良者、学習障害、発達障害への個別対応方法。一般論ではなく、成績評価に関する事例報告など。
- 日本大学アメフト部問題のようなことが長崎大学で起こりうるのか知りたいです。そもそも大学の構造などもよくわかっていないので。そしてまた、公益通報がどの程度有効なのかも把握しておきたいです。
- 成績不良者、学習障害、発達障害などの学生の成績評価。頑張っているので何とかしてやりたくても、規則通りにすれば結局全員不合格になってしまう。
- テーマ：長崎大学における「大学の理念」の再構成 内容：長崎大学における「大学の理念」がどのようにして埋没し、現在に至ってもなお浸透されないのかについて検討し、「知の拠点」としての大学を形成するために「長崎大学の理念」の再構成を図る。
- 教養教育とアクティブラーニングに関して、オンラインでできると良いと思います。
- 先生方が受けている FD を事務が知ることも、いい機会だと思いました。またこういった機会があれば、ぜひ参加したいです。
- クリッカーなど、授業のスタイルを変え、学生が参加できるような機器の使い方や応用例等の FD があるとありがたいです。
- 障がい学生支援センターの活用について（どのような依頼を受けていただけるかなど）
- 今は特に思い付きません。
- 課題作成・提出の時間的猶予があった今回の e-ラーニング形式は、FD 内容の理解に努める上で、良い形式だったと感じます。
- SGD やペアワークの効果的な取り入れ方法など
- 医学部の FD として、CBT や卒業試験の作成に関する FD を行ったら良いと思います。
- このように少しづつ使用方法をレクチャーしてもらえるとありがたい
- 特にありませんが、今回のような注目されている教育ツールに関する内容は良かったと思います。医学部では、コアカリの説明や、CBT や国家試験に沿った卒業試験問題の作成方法に関する FD があるとよいと思います。
- 文教キャンパスでしか行われない FD が結構ありますが、可能なものは坂本キャンパスでも実施して欲しい。
- とくにありません
- 普段、教育に関する新しい情報を勉強する機会があまりないため、今後このような FD があれば受講したいと思います。
- FD は、あくまで自主的に参加させるべきだと思います。そのためには、半強制的でなくとも参加者が多い面白い内容にすべきです。FD としてとりあげるテーマ・内容を増やして、参加者が好きなのをいくつか受けさせるのが理想的です。
- これまで受講した中で、問題を抱える学生をどうサポートするかという観点の FD は、役に立っています。

(2) 総括 (10 (1) を踏まえ FD 全体の総括を記述する)

アンケート結果によると、内容的に、大変有益であったという回答が多かった。また、オンラインで講義および課題提出の形態も評価が良く、実際にループリックを作成することで、理解も深まったと思われる。ただし、何件か動画視聴の不具合なども報告されており、今後検討する必要がある。

1 1. 実施代表者の連絡先

教務委員会委員長 塚元 和弘

e-mail : ktsuka@nagasaki-u.ac.jp 電 話 : 内線 2003

1 2. 申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班 主査 寺川 美穂

e-mail : fd@ml.nagasaki-u.ac.jp 電 話 : 内線 2077